

受験のプロが

2025年
各種入試を

総括 &
予測！
2026年

新課程初年度となる2025年の共通テストや国立大2次試験、私立大一般選抜、学校推薦型・総合型選抜が行われた。その結果はどうだったのか、そして2026年はどうなるのかについて、受験のプロである城田 高士さんに教えていただいた。



駿台予備学校 入試情報室長

城田 高士さん

駿台予備学校の東大専門校舎・医学部専門校舎や現役生専門校舎などで、長年にわたり進路指導を担当。多くの受験生を第1志望の難関大学に送り出してきた。校舎責任者を経て現職。豊富な指導経験も踏まえた入試情報の発信を行っている。

2025年(新課程初年度)入試結果を総括！

共通テスト

難易度(平均点)

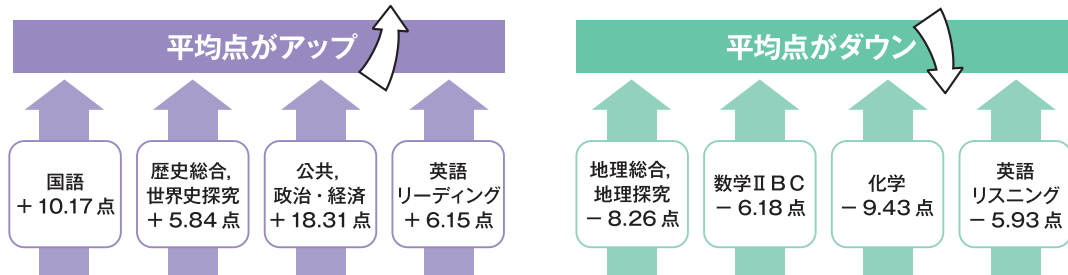
総括 1 6教科文系・理系ともに平均点アップ

2025年は新課程初年度ということもあり、共通テストの平均点アップが目立ちました。科目別に見ますと、**国語(対前年：+10.17点)**、**数学ⅠA(同：+2.13点)**、**英語リーディング(同：+6.15点)**に加え、科目構成が大きく変わった「歴史総合、世界史探究」(同：+5.84点)、「公共、政治・経済」(同：+18.31点)などでアップしました。特に国語は第3

※2025年共通テストの「数学Ⅰ、数学A」は数学ⅠA、「数学Ⅱ、数学B、数学C」は数学ⅡBCと略記。

●平均点がアップ・ダウンした主な科目

※受験者数が1万人以上で、平均点が2024年→2025年で5点以上アップ・ダウンした「新課程科目」を掲載。



問に「実用的な文章」が新設されて大問数が5問に増えてましたが、大部分が4択の設問になったこともあり、前年より易化しました。また、英語リーディングは素材文の語数が前年より約700語減り、該当箇所を特定する際の複雑さが減少したことなどから易化。

一方、平均点ダウンとなった科目は、数学ⅡBC(同：-6.18点)、化学(同：-9.43点)、英語リスニング(同：-5.93点)のほか、科目構成が大幅に変わった「地理総合、地理探

●2025年共通テスト／主な科目の平均点

※大学入試センター発表の最終確定値(1月18・19日の本試験)。受験者数が1万人以上の「新課程科目」を掲載。

教科名	科目名・出題範囲	配点	受験者数	平均点		前年差	備考
				2025年	2024年		
国語	「国語」	200	437,209	126.67	116.50	+10.17	
地歴	「地理総合、地理探究」	100	125,622	57.48	65.74	-8.26	2024年は地理Bの値
	「歴史総合、日本史探究」	100	114,599	56.99	56.27	+0.72	2024年は日本史Bの値
	「歴史総合、世界史探究」	100	69,273	66.12	60.28	+5.84	2024年は世界史Bの値
公民	「公共、倫理」	100	29,042	59.74	56.44	+3.30	2024年は倫理の値
	「公共、政治・経済」	100	127,120	62.66	44.35	+18.31	2024年は政治・経済の値
数学①	「数学Ⅰ、数学A」	100	308,344	53.51	51.38	+2.13	
数学②	「数学Ⅱ、数学B、数学C」	100	285,563	51.56	57.74	-6.18	2024年は数学Ⅱ・Bの値
理科	「物理基礎」	50	18,379	24.78	28.72	-3.94	
	「化学基礎」	50	90,939	27.00	27.31	-0.31	
	「生物基礎」	50	114,388	31.39	31.57	-0.18	
	「地学基礎」	50	46,285	34.49	35.56	-1.07	
	「物理」	100	144,761	58.96	62.97	-4.01	
	「化学」	100	183,154	45.34	54.77	-9.43	
	「生物」	100	57,985	52.21	54.82	-2.61	
外国語	「英語(リーディング)」	100	453,668	57.69	51.54	+6.15	
	「英語(リスニング)」	100	451,864	61.31	67.24	-5.93	
情報	「情報Ⅰ」	100	279,718	69.26	-	-	2025年に新設

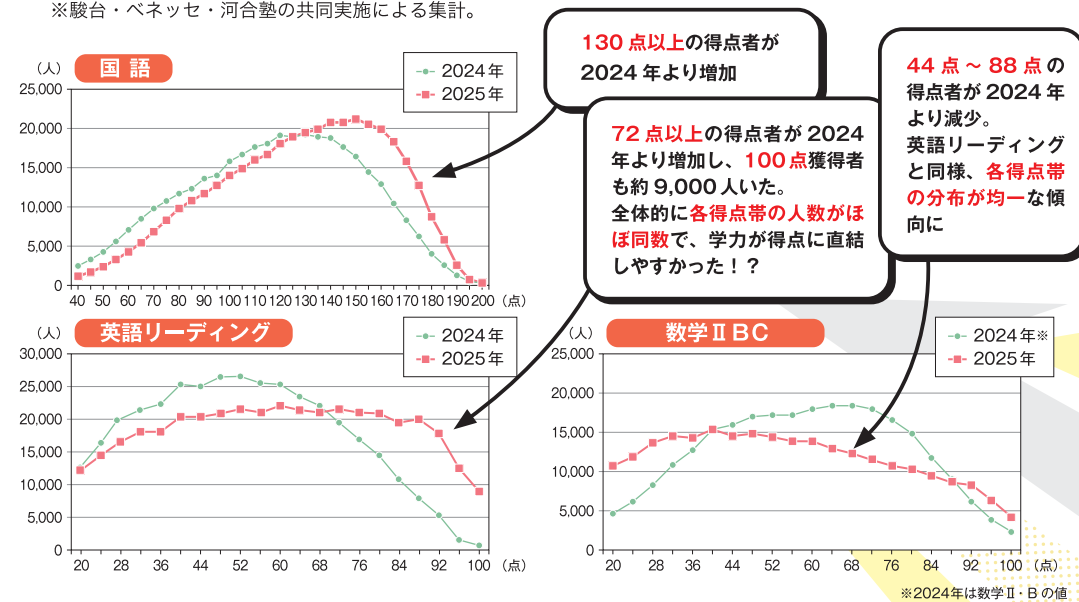
究」(同：-8.26点)などでした。なお、新科目として注目されていた「情報Ⅰ」の平均点は69.26点と高くなりました。プログラミングなど高校の学習を中心に対策してきた受験生には取り組みやすかったようです。

以上の結果、主要科目である国語、数学ⅠA、英語リーディングの平均点アップが大きく影響し、全体の6教科1000点満点の最終予想平均点※は、**文系620点(同：+24点)**、**理系633点(同：+12点)**とアップしました。

※駿台・ベネッセ・河合塾の推定(地歴・公民は合わせて1教科)。平均点差は、前年の5教科900点満点の平均点を1000点満点に換算して算出。

●2025年共通テスト自己採点／得点帯別の人数

※駿台・ベネッセ・河合塾の共同実施による集計。



2025 年（新課程初年度）入試結果を総括！

共通テスト 出題内容

総括 2 思考力・判断力・表現力を問う出題が増加

2025年の共通テストは、複数の資料や図・グラフなどを読み取って考察したり、学んだ知識を日常的な場面で活用したりするなど、思考力・判断力・表現力を問う出題が従来に比べて増えました。科目別に出題の特徴を見ますと、国語は第3問に「**実用的な文章**」が加わり、この大問に**複数テキストや言語活動の設問が集約**されました。逆に、第1・2問は単一テキストの出題となり、全大問で大部分が4択の設問となったため、受験生は取り

組みやすかったようです。一方、英語リーディングは、複数の資料を読んで論拠を整理する問題や、論理構成に配慮して文章を訂正する問題が新登場。英語リスニングは、**講義全体を理解**する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題も見られ、難化しました。数学ⅡBCは、第2問「指数関数・対数関数」で初めて**常用対数表**を利用する問題が出題され、第7問は「複素数平面」のみから出題。化学は問題文が長く読解力を要し、**与えられた条件から段階的に考える**問題や計算問題が増えました。

国公立大2次試験

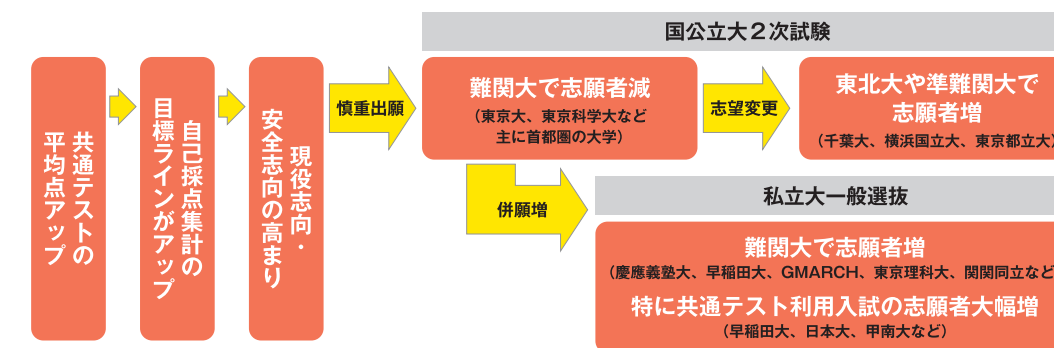
総括 3 共通テストの平均点アップも慎重な出願傾向

2025年共通テストの平均点はアップしましたが、自己採点集計の目標ラインが上がったことや、**現役志向・安全志向**の高まりから、国公立大2次試験は慎重な出願が顕著に見られました。設置者別に2025年志願者数の前年比を見ますと、国立大は前期1%増・後期1%減となったのに対し、公立大は前期4%増・中期6%増・後期3%増と全日程で増加し、**公立大の人気**が伺えました。また、難関国立10大学について、2025年の前期志願者数の前年比を見ますと、北海道大(1%増)、東北大(4%増)、名古屋大(3%増)、京都

大(4%増)、神戸大(1%増)で増加した一方、東京大(11%減)、東京科学大(7%減)、一橋大(2%減)、大阪大(1%減)、九州大(1%減)では減少しました。特に東京大の志願者減の要因は、理科三類以外の5科類で2段階選抜の予告倍率を引き締めたことや、学費の増額が考えられます。また、東京科学大の志願者減は、総合型選抜に女子枠を新設し、募集枠を縮小した工学院(前期)の志願者12%減も影響しています。

東京大や東京科学大など首都圏の難関大から、**東北大や準難関大**(千葉大、横浜国立大、東京都立大)に**志望変更**をした人も少なからずいたようです。

● 2025 年一般選抜／共通テストの結果が国公立大の志願者動向に与えた影響



私立大一般選抜

総括 4 難関大で志願者増、共通テスト利用が大幅増

2025年一般選抜で志願者数が増えた大学が目立ちました。これは**現役志向・安全志向による併願校数の増加**などが要因と考えられます。また、共通テストの平均点アップに伴う目標ライン上昇も、併願校の増加を加速させました。難関大では、慶應義塾大(7%増)、早稲田大(7%増)をはじめ、学習院大(13%増)、中央大(12%増)、立教大(11%増)、関西大(10%増)、東京理科大(9%増)、青山学院大(8%増)、関西学院大(7%増)、

明治大(6%増)、法政大(3%増)、同志社大(3%増)、立命館大(1%増)と軒並み志願者が増加。明治大は**難関国立大志望者の併願先としての人気**が継続し、4年連続増。入試方式別では、独自入試よりも共通テスト利用入試での増加が目立ちました。この方式は**受験料や試験対策の負担が軽い**こともあり、早稲田大(97%増)、日本大(48%増)、甲南大(34%増)などで大幅増。早稲田大は社会科学部・人間科学部で独自入試から共通テスト併用入試に変更したことも志願者増の要因と言えます。

学校推薦型・総合型選抜

総括 5 現役志向、女子枠などの募集人員拡大で志願者増

2025年度に志願者増の大学が目立った要因は以下の点が考えられます。①**新課程入試初年度への不安から、早期に合格を決めたい**という現役志向の高まり、②国公立大の後期廃止・縮小等による、学校推薦型・総合型選

抜の募集人員の拡大、③理工系・情報系の女子枠の拡大。国立大*では、東北大(総合型:7%増)や、一般後期を廃止した京都工芸繊維大(総合型:30%増)、女子枠を導入した滋賀大(推薦型・総合型:48%増)などで増加。私立大*は慶應義塾大(総合型:16%増)、早稲田大(総合型:25%増)など難関大でも増加。

※ 2024年12月25日現在の旺文社調べ(国立大は共通テストを課さない方式)。

2026年（新課程2年目）入試を予測！

共通テスト

- 予測 1** 国語の「実用的な文章」は**複数テキスト**の読解がより煩雑に!?
報告書・企画書・図表などの情報を整理する力が必須
- 予測 2** 英語リーディングは例年同様、日常的な文章から説明文まで
様々な題材が登場。**素材文の語数が増加**し、やや難化!?
- 予測 3** 全ての教科・科目で、問題文がますます膨大に!?
会話文・図表などを用いた様々な設定の下、**読み解く力**が試される
- 予測 4** 情報Ⅰは**プログラミング**などの問題量が増えてやや難化!?
「選択→必須」「点数化」する大学が増え、対策がさらに重要に
- 予測 5** 「歴史総合、日本史探究」の「歴史総合」では引き続き
世界史分野が出題される。新課程対応の、広い視野での学習が必要

2026年の共通テストは、**思考力・判断力・表現力を問う出題傾向**がさらに強くなることで予想されます。国語の「実用的な文章」の複数テキストはもちろん、どの教科・科目も長い問題文や会話文、図表問題、計算問題などを通して、こうした力が試されるでしょう。過去問は少ないため、模試や予想問題も活用して対策すること。平均点は、前年の反動などから**国語や英語リーディングも含めて全体的にダウン**が予想され、国公立大2次試験の慎重な出願傾向は継続されるでしょう。その結果、準難関大や公立大では志願者増、難関大では首都圏エリアの大学を中心に志願者減が目立ちそうです。ただし、2025年の反動から志願者増となる大学も出てくるでしょう。

私立大一般選抜は、国公立大2次試験の慎

重出願による私立大への志望変更や併願増もあり、全体的に志願者が増えそうです。特に共通テスト利用入試の人気は継続するでしょう。ただし、この方式は、難関大では**共通テストで8割以上の高得点者層**が激戦を繰り広げることが多いため、**独自入試対策**にもしっかり取り組むことが大切です。

学校推薦型・総合型選抜は、現役志向の高まりから人気が続くと予想。また、東洋大では2025年度に学校推薦型選抜（基礎学力テスト型）を導入して約20,000人の志願者を集めたため、この影響から2026年度は学校推薦型・総合型選抜で「基礎学力テスト型」を実施する私立大が増えそうです。ただし、選抜方法は小論文・面接・提出書類等のいずれかとの組合せで検討されていくでしょう。

国公立大2次試験

- 予測 6** 共通テストの難化により**現役志向・安全志向**が強まり、
2次試験の**慎重出願**から準難関大・公立大は人気継続!?
- 予測 7** 難関大の志願者は、**首都圏エリアの大学**を中心に減少、
関西エリアは継続して増加が目立つ!?
- 予測 8** 地歴・公民・数学は経過措置が終了し、**新課程**の出題のみに。
過去問が乏しい分、模試・問題集で対策が必要

私立大一般選抜

- 予測 9** 国公立大2次試験の慎重出願による
私立大への**志望変更**や**併願増**が予想され、全体的に志願者増!?
- 予測 10** 受験料や試験対策の負担が軽い**共通テスト利用入試**は人気継続!?
ただし、難関大は激戦必至となるため、**独自入試対策**も不可欠

学校推薦型・総合型選抜

- 予測 11** 私立大で**基礎学力テスト型**（併願可）が拡大!?
小論文・面接・提出書類等のいずれかとの組合せとなるか
- 予測 12** 理工系・情報系の**女子枠**の拡大が進む。
ただし、出願準備や対策は大変なので、挑戦するかは要検討